



野垣あきこと まちづくりカフェ

HPはコチラ



2026年8月26日 No.260

連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ！

地震による火災を防ぐ

感震ブレーカーの設置を広げよう！支援事業のお知らせ



設置する感震ブレーカー(器具)

フタ付き分電盤



▲「感震ブレーカー」とは、震度5強以上の揺れを感知すると自動的にブレーカーを落とし、電気を止める装置です。作動震度は強弱2段階の切替【震度5強／震度6弱】の設定が可能です。

杉並区では、首都直下地震の発生に備え、今後の出火防止対策に生かすために、「感震ブレーカー」の設置状況に関するアンケート調査を実施しながら、設置支援事業の周知も行っています。

アンケートへの回答、支援制度でぜひ設置の検討を！

7月に発生した熊本地震後も、全国で地震が相次いでいます。関東でも、8月23日の深夜2時に茨城県を震源とする震度5弱の地震が発生し、杉並区では震度4の揺れを観測しました。

都市部では、大規模地震の被害に重ねて火災が発生しやすく、その6割以上が電気火災と言われています。地震発生時に外出していたり、避難時にブレーカーを落とし忘れると、停電が復旧した際

に、電源が入ったままの家電製品や電気コードのショートなどによって「通電火災」が起きやすくなります。

大規模地震の発生時に、感震ブレーカーが自動的に作動し、ブレーカーを落とすことで火災を予防することができます。

党区議団は、木密地域が多い杉並区で、電気火災を防止するため有効な手段として、前区政時代にいち早く質問で取り上げ、この制度を実現させました。

アンケートへの協力を

現在、杉並区では、区内での感震ブレーカーの設置状況を調査するため、区内在住の方に向けてアンケートを実施しています。

以下の二次元コードから8月31日までに、回答を送ってください。

どうすれば設置できる？

感震ブレーカーの購入にかかる費用は杉並区が負担します。申請は一世帯につき1回です。



設置の費用は、高齢者のみ世帯や障害者のいる世帯は無料、一般の世帯は2,000円です。

また、火災危険度ランク4以上に該当する地域(天沼1・2丁目、本天沼1・2丁目など)では、一般の世帯でも無料になります。

昨年からの電子申請も可能となりました。以下からアクセスし、制度の詳細を確認してください。



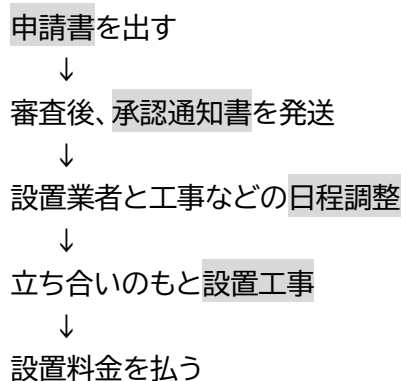
申請および審査後、協定を締結している小規模建設事業団体連絡会の事業者が訪問し、簡易型感震ブレーカーを分電盤に設置します。

制度の詳細は、杉並区役所西棟6階の危機管理室防災課

☎ 03-5307-0702

まで、お問い合わせください。

申請から設置までの流れ





1. 東京都及び特別区と連携し、被災自治体への人的・物的支援を積極的に実施すること
2. 被災地の実情を踏まえ、区として可能な支援を検討・実施すること
3. 猛暑下の避難所運営について緊急点検を実施すること
4. 避難生活の環境改善をさらに進めること
5. 在宅避難者への支援体制を総点検すること
6. 区内の防災体制について、今回の熊本地震の教訓を踏まえ総点検を行うこと

8月7日 日本共産党杉並区議団は「令和8年熊本地震を受けた被災地支援及び杉並区の防災対策の強化に関する緊急申し入れ」を岸本区長に手渡し、提案と懇談を行いました。

首都直下型地震に備えて 新たな課題も明らかに

杉並区は、赤十字を通じ義援金の受け付け、東京都の対口（た いこう）（たいうこう）支援方式に基づく職員派遣の準備を進めています。

防災課からは、都からの要請に応じて保健師や家屋調査職員の派遣を予定していることや、震災救援所へのスポットクーラーや蓄電池の配備状況について説明を受けました。

一方、今回の熊本地震では、猛暑下での避難所運営や電源確保、在宅避難者への支援など、新たな課題も浮き彫りとなっています。首都直下地震の発生が危惧されるなか、杉並区としても今回の教訓を速やかに検証し、防災対策の一層の強化につなげることを求めました。

※対口支援方式 被災自治体に支援する自治体を割り振って支援する方式で、「カウンターパート方式」とも呼ばれています。

弁護士による法律相談

毎週 水曜・金曜
14時～16時

会場 日本共産党杉並地区委員
高円寺南3-30-12
電話 03-3314-5551
(予約不要、先着順に受付)



申し入れの全文は、
下の党区議団ホームペ
ージからご覧ください



熊本県が26日に発表している熊本地震による被害情報は、

・ 人的被害	402名
・ (うち死亡者)	38名
・ 住宅被害	39,657棟
・ (うち全壊)	1,695棟、
・ 避難所開設数	64カ所
・ 避難者数	2,589名
(11市町)	



▲杉並区の
対応
東京都の
対応▼



あきこの部屋

お盆休みにモーク阿佐ヶ谷で韓国映画「済州島四・三事件ハラシ」を観ました。1948年の済州島四・三事件で弾圧された民衆の話で、白色テロ時代の台湾を描いた映画「流麻溝十五号」と同様、あまりの理不尽さに怒りと涙を抑えきれませんでした。

こんなに大変な事件が反共政策で隠蔽され、後に朝鮮は南北に分断。韓国の民主化への熱い想いは当然だと感じました。

韓国から始まったろうそく革

命改め、ペンライトデモは今や日本でも反戦平和のデモの象徴となっています。済州島は人気のリゾート地ですが、この事件はどこまで知られているのか？本土復帰前の沖縄のたたかいとも重なる気がしました。

また、従軍慰安婦をテーマにした韓国映画「雪国」で、15歳の主人公役を務めたキム・ヒヤンギという女優が、この作品では6歳の子の母親として出演しているのも感慨深かったです。